

# 播磨灘広域共同調査（抄録）

（平成30年度漁場環境改善推進事業「赤潮被害防止対策技術の開発」）

吉田和貴・加藤慎治・池脇義弘・平野 匠

近年、瀬戸内海東部海域では有害赤潮プランクトンによる漁業被害が生じている。赤潮による漁業被害を未然防止および軽減するためには、赤潮発生海域を網羅した広域的な調査を実施する必要がある。本課題では、瀬戸内海東部海域において、各機関が連携して広範な調査を実施し、有害赤潮プランクトンの発生状況および海洋環境を監視するとともに、既存データも含めたデータ解析によって当該海域における有害赤潮の発生シナリオを検証し、赤潮発生予察技術の精度向上を図る。併せて、これらの情報発信方法を検討することで漁業被害軽減に資することを目的とする。

平成30年度における徳島県担当海域（播磨灘南東部）における有害種等の出現数の推移等について取りまとめたので、その概要を報告する。なお、詳細については『平成30年度漁場環境改善推進事業「赤潮被害防止対策技術の開発」報告書』を参照されたい。

## 1. 夏季調査

*Chatonella antiqua* が7月上旬に出現し、一時的に高密度化した。7月下旬には検出されなくなった（図1）。

*Karenia mikimotoi*は7月中旬に出現したが、期間を通

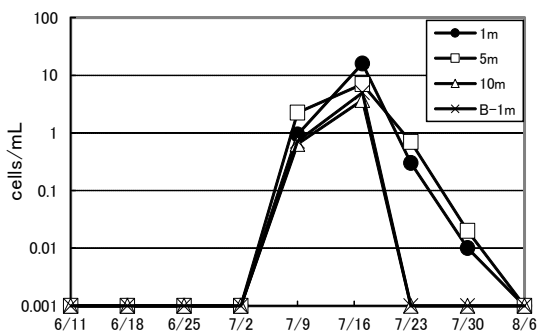


図1. *C. antiqua*及び*C. marinai*細胞数の推移

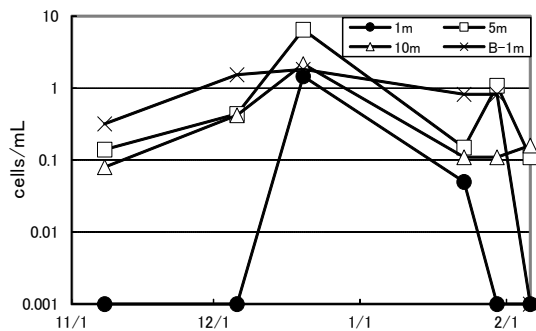


図3. *E. zodiacus*細胞数の推移

じて低密度だった（図2）。

近年は、夏季の赤潮による漁業被害の件数が減少傾向にあるが、引き続きモニタリングを行い、漁業被害の防止や軽減に努めるとともに予察技術の精度を向上させる必要がある。

## 2. 冬季調査

ノリ、ワカメの色落ちの原因となる珪藻の*Eucampia zodiacus*が11月上旬から2月上旬に出現したが、低密度だった（図3）。同じくノリ、ワカメ色落ちの原因となる珪藻の*Coscinodiscus wailesii*が11月上旬から2月下旬に出現したが低密度だった（図4）。DIN濃度については、12月は昨年度より高めであったが、10月～11月、1～3月は低めに推移した。一時的にDIN濃度が $2\mu\text{M}$ （ワカメの色落ちが発生する目安）を下回ることもあったが、ワカメの顕著な色落ちは報告されなかった。

近年は、栄養塩の減少に加え、ノリ、ワカメの色落ちの原因となる珪藻が増加し、ノリやワカメの色落ち被害が度々発生している。引き続きモニタリングを行うことでノリ、ワカメの色落ちの原因となる珪藻赤潮の発生メカニズムを把握し、予察技術の開発を目指す。

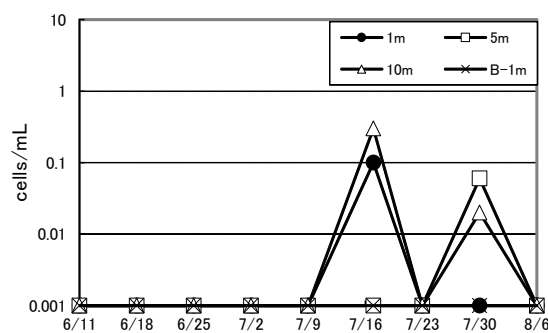


図2. *K. mikimotoi*細胞数の推移

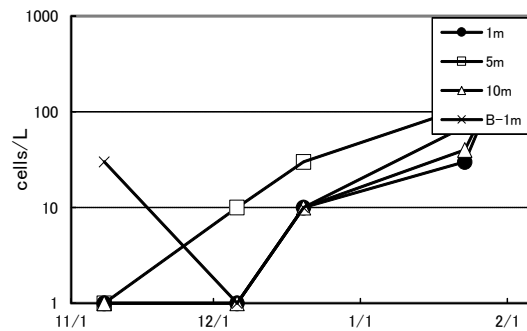


図4. *C. wailesii*細胞数の推移